

2019年3月期決算説明資料

開催日：2019年4月25日（木）

出席者：代表執行役社長 小早川 智明

代表執行役副社長 文挾 誠一

代表執行役副社長 守谷 誠二

常務執行役 大槻 陸夫

説明資料：2019年3月期決算説明資料

【2019年3月期連結決算の概要】

- スライド1では今回の決算のポイントを端的に整理しております。
- 東京電力グループの販売電力量が減少したものの、燃料費調整額の増加などにより、売上高は増収となりました。
- 経常損益は、燃料価格が上昇したものの、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減などにより、増益となり、経常損益、当期純損益は6年連続の黒字を確保いたしました。
- なお、2019年3月期の期末配当につきましては、「無配」とさせていただき、2020年3月期についても、中間・期末ともに「無配」とさせていただく予定です。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年度比で8.3%増の6兆3,384億円と「増収」、経常損益は8.5%増の2,765億円と「増益」となり、特別損益を加えた当期純利益は、2,324億円となりました。
- 経常損益ベースでの「増収・増益」は2年連続となります。

【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。スライド4のセグメント別の売上高と経常損益の表をご覧ください。
- 3基幹事業会社からの経営サポート料が減少したことなどにより、売上高は前年度比75億円減収の9,501億円となりました。
- 一方、委託費の減少、子会社からの配当金の増加により、経常利益は、905億円増の2,327億円となりました。

- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 主にエネルギーパートナー向けの電力卸売の増加などにより、売上高は前年度比2,051億円増収の2兆336億円となりました。
- 一方、コスト削減努力などにより修繕費が減少したものの、燃料価格の上昇による燃料費の増加などにより、経常利益は484億円減の35億円となりました。
- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- FIT買取電気の取引所向けの卸売などが増加したことにより、売上高は、前年度比468億円増収の1兆7,889億円となりました。
- また、委託費・修繕費などの減少により、経常利益は349億円増の1,139億円となりました。
- 最後に、東京電力エネルギーパートナーの業績です。
- 燃料費調整制度による販売単価の上昇などにより、売上高は前年度比3,268億円増収の5兆8,593億円となりました。
- 一方、域外の販売電力量は増加したものの、競争激化によりグループ全体の販売電力量が減少したことなどにより、経常利益は432億円減少し、727億円となりました。

【連結特別損益の概要】

- 特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別利益として、原子力損害賠償・廃炉等支援機構からの資金交付金1,598億円を計上いたしました。
- 一方、特別損失として、災害特別損失の269億円に、原子力損害賠償費の1,510億円を加え、1,780億円計上いたしました。

【連結財政状態の概要】

- 連結財政状態については、スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、総資産残高が増加したことに加え、当期純利益の計上により純資産が増加したことなどから、前年度末より1.5ポイント改善し、22.6%となりました。

【2020年3月期業績予想】

- 最後に、2020年3月期の業績予想については未定としました。
- 今期は、福島第一原子力発電所・初号機の燃料デブリ取出し工法の確定を目標としています。

- 確定した工法によって、取出し費用を変更する可能性があることから、現時点で具体的な収支の見通しはお示しできないと判断しました。
- 今後、見通しがお示しできる状況となった段階でお知らせいたします。

【参考資料（スライド7以降）、補足資料（スライド11以降）】

- スライド7以降は参考資料および補足資料です。

以 上